



馬耳東風

以前、大臣の相次ぐ失言問題、都知事の献金問題など当事者の人格を疑うような事があったが、また最近、失言とか不正が気になりだした。失言は、本人は失言と思って発言している訳ではなく、本心で思っていることが言葉になって出てきた訳だし、議員の出張費の不正受領も本人のさもしい本心がそうさせたのみである。

先般、福島県民を馬鹿にした失言とか、都議会で出た女性を蔑視したヤジは、今時、この程度の議員が巾を効かせているのかと驚いた。さらにヤジの発言者を特定するように求められた最大派閥は「それは不可能である」と拒否した事には啞然とした。その後、世間からの予想外の風当たりの強さに驚き、急遽、公表された発言者は事もあろうに前日受けたインタビューの席上、他人事の如く「発言者は許されるものではありません」と糾弾していた本人だった。本人が謝罪したのは発言から5日後だったが、都民を見くびった言動である。フランスの記者は「日本の政治は男の世界、女性を見下し、芸者のようなエンターテインメントを求める風潮が今もある」とコメントしている。更に北欧の議会では「性差別的な発言をすれば議員生命は終わり」という（朝日6月25日）。自己顕示欲が強い議員は、議会で何回発言したとか、この議案の成立には自分が貢献したとか宣伝したが。ヤジも発言の一部とでも思っているのだろうか、もっと人格を磨いて出直してほしいものだ。失言した大臣や議員などが頻繁に失言の取り消し会見を行うが、見ていると一

気に信頼感が崩れる気がする。「口は禍の元」とか「多弁に能なし」という格言を思い出すが、時代は変われど昔も今も人間の性は変わっていないようである。

欧米など民主主義が成熟した議会では相手の人格を無視したり誹謗・中傷するようなヤジは卑劣な行為として発言者の倫理感を疑われることから、議会での常識として発せられることは無いという。早稲田大学の北川教授（前三重県知事）はヤジと暴言は異なること、暴言を見逃すのは議長の責任であり、都議会議員の倫理観不足とコメントしていた。一自治体の議会での発言が世界的にひんしゆくを買っている訳だが、世界都市を標榜する東京は組織の内部が露呈し、また一つ大きな汚点を残した。都議会のレベルの低さを嘆くと同時に、その傲慢な議員を選出した有権者のレベルが問われているとも言える。このような問題は東京に限った事ではなく、議会の体質として全国的に何処にでもありそうな気がする。日本の議員報酬は世界的に見ても非常に高いレベルという。昔は、成功した事業家が金持ちのまま死ぬのは恥だという名言を残したカーネギーに代表されるように、自分を育ててくれた社会に利益を還元しようとの思いで議員になり、資産を使い果たした人も少なくなかった。今は金儲けを目的に議員になり、自分の利益ばかり考えて行動する者が多く、これでは政治屋と言われても仕方ない。このような事件が起こる度に、政治のレベルアップのためには何らかの形で議員の資格試験が必要であるとの意を強くする。

(青)